

よぬだ ところどころ



第十一号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

西脇の奇岩

西脇の飛騨川河岸にある珍しい岩

現在、西脇地区の飛騨川河岸は、段丘崖がダム湖に落ち込み、樹木が繁茂している。今渡ダムができるまでは崖と川の間に岩石段丘が露出し、所々には川に降りる小道があったという。

東栃井で育った津田左右吉も、父に連れられて河岸に降りた経験を「子どもの頃の思い出」に記載しているが、相当地に怖かった思い出として残っていたようである。

上の写真は光徳寺の飛騨川河岸の様子である。段丘崖ギリギリに建てられた建物の座敷から飛騨川を眺める光景は素晴らしいものがある。下米田に生まれた子供たちには是非見てもらいたい景色である。しかし、最近是对岸の川辺に、工場の白い建物がつくられ光徳寺の借景を毀損してしまっている。時代の流れとは言え残念なことである。

また、上の地図は明治末期の地形図の一部である。川を挟む段丘面には、桑が植えられていることが分かる。当時、下米田地区は繭の飼育が盛んで、貴重な農家の現金収入となっていた。

下の写真は、ダム



湖面から頭をのぞかせたまさしく珍しい岩である。樹木の繁茂により西脇にありながら、西脇からは見ることができないが、対岸の川辺からは見ることができる。岩石段丘が形成される過程で、浸食によりこのような形となったものである。小山からの湖上観光船からでも見ることができる。

